



平成 21 年 4 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社 アテクト
 代表者名 代表取締役社長 小高 得央
 (J A S D A Q ・ コード 4 2 4 1)
 問い合わせ先
 責任者役職名
 取締役 C F O 兼 管理ディヴィジョンリーダー
 氏 名 水馬 暁
 T E L (072) 967 - 7000 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年12月15日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成 21 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回予想 (A)	3,738	10	△ 97	△ 168	△ 50 円 39 銭
今回予想 (B)	3,566	△ 49	△ 124	△ 263	△ 78 円 99 銭
増減額 (B-A)	△ 172	△ 59	△ 27	△ 95	
増減率 (%)	△ 4.6	—	△ 27.8	△ 56.5	
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	3,536	308	270	141	84 円 59 銭

2. 平成 21 年 3 月期 通期個別業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回予想 (A)	3,099	128	111	47	14 円 10 銭
今回予想 (B)	3,015	135	119	7	2 円 27 銭
増減額 (B-A)	△ 84	+ 7	+ 8	△ 40	
増減率 (%)	△ 2.7	+ 5.5	+ 7.2	△ 85.1	
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	3,549	364	346	200	120 円 02 銭

3. 業績予想の修正の理由（連結・個別）

当社の半導体資材事業において、第2四半期迄は新興国を含めた急激な世界的需要の減退により、若干の受注の落ち込みはあったものの、TV用パネルを始めとした大型パネルはある程度の堅調を維持しておりました。第3四半期中頃（11月上旬）から大手家電メーカーの液晶テレビの減産により、液晶パネルメーカーの在庫調整が長期化し、生産の減少が顕著化いたしました。当事業の主力製品でありますスペーサーテープは、液晶ディスプレイ等の駆動用LSIの実装に用いられるCOFテープやTABテープを保護する資材であり、かつ市場シェアが著しく高いことから、液晶パネルメーカーの大幅な減産に伴って、スペーサーテープの売上高の減少を余儀なくされ、平成20年12月15日に業績を大幅に修正いたしました。

その後、半導体資材事業の売上高は12月時点で予想した水準でほぼ推移いたしました。前々回予想（2,488百万円）、前回予想（1,685百万円）、今回予想（1,593百万円）

しかし、前回予想から修正に至った理由は以下のとおりであります。

連結子会社の株式会社ダイブラのプラスチック造形事業においては、本事業の主たる需要が親会社と同様、液晶パネル製造関連で、高精度・超耐熱の製造設備部品であることから、顧客である液晶パネルメーカーの設備投資の延期により、当該顧客向けに計画していた製品の出荷も延期されたため、当期における売上高の計上ができなかったこと、また連結子会社であるトライアル株式会社のポリマー微粒子事業において、当初販売を予定していた顧客への出荷を、当期末における与信リスクの観点から見送り、決済条件を変更したうえで次期に出荷・売上計上することを当該顧客と合意したこと等が原因であります。

これにより、プラスチック造形事業の売上高は前回予想（591百万円）に比べ△8.5%の541百万円、ポリマー微粒子事業の売上高は前回予想（81百万円）に比べ△45.7%の44百万円、になる見込みであります。

営業利益は、プラスチック造形事業およびポリマー微粒子事業の売上高が前回予想値を下回ることが要因により、連結△49百万円（前回発表予想値10百万円）と前回予想値を下回る見込みであります。

経常利益につきましては、上記営業損失の計上により連結△124百万円（前回予想値△97百万円）となる見込みであります。在外子会社（株式会社アテクトコア）において、韓国ウォン下落に伴う大幅な為替差損（88百万円（前回予想値））の計上は57百万円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、△263百万円となる見込みであります。その内容は、平成21年3月13日「特別損失の発生に関するお知らせ」にて公表のとおり、当社グループ全体の事業運営の効率化を図り、来期以降の収益確保を図るため、株式会社アテクトの本庄工場を本社工場へ統合（平成21年8月予定）、株式会社ダイブラの川俣工場を株式会社アテクトの本社工場へ統合（平成21年5月予定）することを決定しました。それに伴い、配線配管等設備・老朽化設備の廃棄や賃借物件の原状回復工事等が発生することにより、当期に連結92百万円、個別78百万円を特別損失として計上いたしました。また、子会社において繰延税金資産の取崩等を行ったこと等が理由であります。

以 上